

岩井町	六〇〇	二、七四〇	二、六三二	五、三六八
七郷村	六六六	一、八四二	一、六六一	三、四五三
中川村	六六六	一、九三二	一、九三三	三、八六五
境町	一、〇三三	二、三三七	二、三三三	五、〇〇四
長須村	六六六	二、一〇六	二、〇〇〇	四、一〇六
合計	二、〇四七	七、〇三〇	六、三三二	一三、三六二
菅生村	六四四	一、五八六	一、七四五	三、三四二
坂手村	三三四	八三三	六六一	一、四〇四
内守谷村	三〇〇	七六六	七六六	一、五三二
小絹村	四〇〇	一、〇六六	一、〇六六	二、一三二
大井澤村	三六六	九三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇
大野村	三三三	八三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇
高野村	三三三	八三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇
守谷町	五五五	一、三三三	一、三三三	二、六六六
高井村	四四四	一、一三三	一、一三三	二、二六六
稻戸井村	三三三	九三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇
山王村	四四四	一、一三三	一、一三三	二、二六六
寺原村	三三三	九三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇
取手町	一、〇四四	二、三三三	二、三三三	四、六六六
井野村	三三三	九三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇
小文間村	二二二	七三三	八三三	一、五六六
六郷村	三三三	九三三	一、〇〇〇	二、〇〇〇

相馬町	五〇四	一、三三三	一、四六六	二、七七一
高須村	元元	八三三	八三三	一、六六六
川原代村	二二二	六六六	七三三	一、三三三
北文間村	三三三	八三三	八六六	一、六六六
文間村	二九六	七三三	八三三	一、八六六
布川町	四六六	一、三三三	一、三三三	二、六六六
文間村	三三三	八三三	九三三	二、〇六六
東文間村	三三三	八三三	九三三	二、〇六六
合計	九、三三一	二、四四六	二、四四六	四、八九二

後任は郡司常成氏
 本縣統計協會副會長、縣統計課長大月一郎氏は今回大工都日立市の初代助役として市會全會一致の懇望に依り就職の爲退職された氏は結城、東茨城、北相馬の各郡役所を經て縣廳に入り、永らく地方課に在つて地方行政事務を執掌し地方行政の實務に通曉すること實に縣廳一を以て目されて居つた程である。又統計課長として就任されては期間としては長くはなかつたが常に明敏なる頭腦を以て統計の改善刷新に盡力せられ殊に昨年施行せられた臨時國勢調査及び勞働統計實地調査の如き實に優秀なる成績を收め得たことは全く氏の計畫、指導に依る結果である。事變下愈々統計界の多事ならんとする時氏の退職は各方面から惜まれて居る。尙ほ後任は統計課主席として敏腕を揮ひ終始大月氏を援けて來た郡司常成氏が昇格就任されたので本縣統計界の陣容は些のゆるぎも來さず、郡司氏が多年統計事務に執掌顯著せる經驗は將來縣下の統計事務指導の上に一段の光彩を添へるものと期待する。



明治大帝最初の 地方行幸行在所

稻敷郡牛久村を視察し
 芋錢翁の草汁庵を訪ふ

地勢と沿革

常磐線牛久驛で汽車を降りた、記者は歳末の陽光を浴びて敷町を牛久村役場へ急いだ、第六號國道のよい道である。新設された精機工場などは勿論事變關係のもので「縦覽謝絶」の木札が掲げられて居る。木造二階建の村役場が見える所へ來ると左側の駐在所に村長塚本俊造氏が防護團服を着た數人と椅子に腰を下してゐた。記者の顔を認めた塚本村長は「いや之れは珍らしい、何に來られた」との間である。記者は牛久村が統計優良村として成績がよいので視察に來た由を述べると「今日は生憎防護團の点檢で……」と如何にも残念さうである。塚本村長は曩に縣會議員として政友派に重きをなした頃から舊知の間柄で、その關羽髯とも随分古い名染である。連れなつて役場に入り取敢ず記念撮影をして塚本氏と別れた

牛久村の地勢は地坦で岡丘が南北に延び、田宮、牛久、城中の三大字は此の岡の上にあり、新地、庄兵衛新田と遠山の一部は丘を負つて牛久沼に面してゐる。大字牛久は陸前濱街道即ち第六號國道の舊宿驛で人家稠密交通が便利で小市街の觀を呈してゐる。村内の土地は概して豊饒で農耕に適してゐるが、同村は舊牛久藩の領地で藩主山口氏の祖先重政が元和元年大阪役の戦功に依つて牛久城主となつたものである。明治五年廢藩置縣の際牛久藩を廢し牛久縣を置かれた。戸長の制が出た際、二聯合に分屬し、明治十二年郡區編成に際し依然舊田宮を除く外一行政區となつた。同十七年區域改正に當

り現在の岡田村の一部大字岡見、柏田、猪子等を合せて一行政區となつたが明治二十二年町村制實施に當り、分れて現今の六大字を以つて牛久村となつたものである。

戸口と面積

面積は〇、六五方里、東西は二十三町、南北は一里十六町で菫菜で有名な牛久沼は周圍六里二十二町、六百六十五町歩あり、鯉、鰻等の生産があり、本縣に於ては霞ヶ浦、北浦、涸沼に次ぐ大きな湖沼である。戸數は五百三十八戸で農家が四百三十七戸を占め、其の他は商業、漁業、工業、自由業等で農家は自作農八十六戸、自作兼小作農百八戸、小作農二百四十三戸である。人口は男一千六百十二人、女一千六百五十七人、計三千二百六十九人で一戸當り平均六、九二人に當つてゐる。



向テ左カラ 本家村長 黒澤收入 松浦助役
澁川書記 久岡書記 室書記 黒澤書記

五千二百二十圓で、畜産物は三千二百八圓、林産物は八千五百十四圓、林野産物二千三百四十六圓、漁獲物九百二十圓等であるが其の中主なるものを記せば左の通りである。

米 八萬六千三百一十一圓△大麥 一萬三千八百四十六圓△小麥 三萬六千六百四十圓△大豆 五千五百五十圓△甘藷 三千八百七十五圓△馬鈴薯 二千五百二十圓△西瓜 四千二百圓△蕃茄 千五百七十五圓△生大根 千四百圓△里芋 千二百九十九圓△漬菜 千三百五十圓△春蒔 一萬八千四百四十九圓△夏秋蒔 二萬五百三十七圓△製茶 五百八十圓△產卵 一萬三千七百三十三圓△薪炭材 七千二百圓△下駄 千八百圓△草履 四百圓而して家畜は牛六十五頭、馬十九頭、豚八十六頭、山羊九頭で養鶏は四百五十五戸で行ひ成鶏二千七百二十四羽、雛二千七百八羽がある。

生産物價額

生産物の首位を占めるものは農産物で其の總額は六十九萬

同村の總豫算二萬一千五百二十一圓に對し統計費は二百五

統計調査員